

上宇部校区地域づくり計画

地域はひとつの大家族

～上宇部のよさや課題を発見し、

これからのまちづくりを考える～



平成29年3月

上宇部校区

上宇部校区地域づくり計画 目次

1	上宇部校区地域づくり計画の意義	1
2	上宇部校区の概要	2
3	上宇部校区の将来像	4
4	上宇部校区の課題と今後の取り組み	4



1 上宇部校区地域づくり計画の意義

(1) 地域づくり計画策定の趣旨

現代社会においては、地域を取り巻く環境や住民のニーズ・価値観が複雑多様化し、人と人とのふれあいや近所づきあいなどは年々希薄になりつつあります。このような中、子どもたちの健全な育成、少子高齢化、健康づくり、防災等といったさまざまな地域の課題に対応していくために、行政と協働しながら地域住民みんなによる、安心安全に暮せる住みよい地域づくりを進めていくことが必要です。

このため、地域づくり活動を活性化するためにも、住民みずからが「地域づくり計画」を策定し、それをもとに協力しあって解決に向けた活動に取り組んでいくことが大切です。

これからの地域全体の羅針盤として、地域における課題の洗い出しからその解決に向けての取り組みなどをまとめ、今後を見据えた組織づくりを含めた「地域づくり計画」が必要です。

(2) 計画の構成

地域づくり計画は、次の3つの項目によって構成されています。

- 1 校区の概要
- 2 校区の将来像
- 3 校区の課題と今後の方針及び取り組み

(3) その他

地域づくり計画については、来年度以降見直しを行い、常に地域住民のニーズや地域を取り巻く社会環境に的確に対応した計画とします。

2 上宇部校区の概要

中国地方9ヶ国の大名だった毛利氏は、関ヶ原の戦い以後、領土を周防・長門の2ヶ国に縮小されました。その後の地行替えにより、福原氏が寛永2年(1625年)に寒村だった宇部の領主として配置され、上宇部中尾に邸を構えるようになってから、上宇部は政治・経済の中心としての役割を持つようになりました。

また、教育の面では、天保年間(1840年頃)に郷校として中村に晩成舎を設け、後に現在の福原邸後に菁莪堂を開設し家臣の教育機関としましたが、福原越後公は、元治元年(1864年)4月に維新館と改称し、文武の教育を振興しました。明治5年(1870年)、学制が公布されると翌年には、宗隣寺を仮の校舎として小学校が開かれ、その後、教念寺に移りましたが、明治7年、中尾に宇部で最初の小学校が新築されました。大正9年(1920年)には、村立の宇部中学校(現在の宇部高等学校)が開校しました。現在では、校区内に宇部工業高等専門学校、山口大学工学部があり、文教地区としても環境良好な地域です。

炭鉱で働く人たちの流入による明治後半からの急激な人口に伴い、大正10年(1921年)、宇部村は一躍宇部市となりました。宇部市民の産土神として、信仰の厚い琴崎八幡宮へ通じる参宮通りは、かつて石炭を港まで運んだ積出し道を基盤としており、宇部で初めて石炭を運んだ蒸気機関車が走った道でもあります。

このように「宇部発祥の地」としての誇りをもちながら、現在人口約14,000の住民は「地域はひとつの大家族」をスローガンに、心豊かな住みよいコミュニティづくりに積極的に取り組んでいるとともに、人権活動にも力を入れています。



■校区の人口と世帯数

上宇部 校区	世帯	人口	年少人口	生産年齢 人口	高齢者 人口	後期高齢 者人口	出生
			14歳以下	15～64歳	65歳以上	75歳以上	0歳児
平成18年	7,168	15,417	2,071	10,071	3,275	1,569	112
平成23年	7,135	14,776	1,881	9,329	3,566	1,830	139
平成28年	7,078	14,134	1,736	8,358	4,040	1,951	121
平成32年 (予想)	7,020	13,500	1,600	7,490	4,410	2,080	110

各年4月1日現在

※ 平成32年は校区独自で予想

それ以外の年は宇部市年齢別住民基本台帳人口を参照

<少子高齢化の進展による影響>

校区人口は市内24校区の中で最も多い校区ですが、今後長期的に減少し、少子高齢化が急速に進むことが予測されます。こうした人口構造の変化は、校区の社会に大きく幅広い影響を与えるものと考えられます。

まず、人口に占める高齢者の人口の比率が高まり、高齢者1人当たり生産年齢人口（15～64歳人口）は、平成18年現在3.1であるものが、平成32年には1.7になることが予想されます。

そして、今まで社会の様々な側面に大きな影響を与えてきた世代が、労働市場から徐々に退出していきます。

3 上宇部校区の将来像

「宇部市発祥の地を誇りとし、みんなが健康で活気あふれた交流のまち 上宇部」

上宇部校区が宇部市発祥の地であることを誇りとし、校区の歴史と伝統を重視しながら地域交流を基に、校区民が安心して暮らせる校区を目指します。

4 上宇部校区の課題と今後の取り組み

■上宇部校区の課題と今後の取り組み

上宇部校区では「宇部市発祥の地であることを誇りとし、みんなが健康で活気にあふれた交流のまち 上宇部」という将来像を設け、市と協働しながら、上宇部校区独自のまちづくりを推進していきます。そして、次の6つの分野を中心課題として取り上げ、今後、課題解決のためにいろいろな取り組みを実施します。

- 1 子どもの健全育成
- 2 高齢者福祉の向上
- 3 健康づくりの推進
- 4 地域防災の向上
- 5 地域資源の活用
- 6 人権の啓発

(1) 子どもの健全育成

① 課題

上宇部校区は小・中学校とも児童・生徒数の多い大規模校ですが、地域においては、子ども会の組織率が低下する等、子ども同士や子どもと大人の集う機会が減少し、互いに支え合おうとする意識が弱り人間関係が希薄になってきています。こういった状況は、家庭を孤立化させるとともに、学校や地域活動への参加意識を弱めるなど、地域の教育力の低下を招いています。その中で、親子のコミュニケーションの場となる食卓において家族がそろって食事をする機会も減少している状況です。

また、上宇部校区は市内でも出生数が多い校区ですが、核家族化が進む中で、育児モデルが身近にないままに孤立感を感じながら子育てをしている家庭も増えています。安心して子育てができるまちづくりのために、子育て世代が集う場及び多世代が交流する場の確保や充実が求められています。

さらに、通学路に危険な箇所が多数あり、児童・生徒の安全確保に努める必要があります。

② 目指す将来像

「ふるさと上宇部を愛し、たくましく育つ上宇部っ子」

上宇部校区では、①「コミュニティ・スクールとしての小・中学校教育への地域総がかりでの支援」②「安心して子どもを育てられる子育て環境の充実」の目標を掲げながら、子どもの健全育成に取り組みます。

③ 今後の取り組み

ア 上宇部を愛する子どもを育む学習環境の充実

上宇部のひと・もの・ことを積極的に活用した楽しい学習の充実及び放課後、長期休業中の習熟予習等基礎学力の向上につながる取り組みを支援します。

イ 小・中学校との連携による交流の促進

様々な地域活動や社会活動等に子ども達の積極的な参加を促し、地域の大人と子どもの交流の場を増やし、子どもの社会性や地域貢献力を身に付けることができるよう支援します。

ウ 子育ての孤立感を解消できる環境の確保

公共施設の開放や子育てサークル、育児相談等、子育て世代が気軽に集まり情報交換できる場を確保し、子育ての孤立感や不安感を解消することにつなげます。また、多世代との交流の機会を増やすことで、育児イメージを持ち、自立した子育てができるよう支援します。さらに、母子保健推進員と行政が密に連携することで、早期に対応が必要な家庭の支援を推進することで子どもの健全育成に努めます。

エ 子どもたちの孤食を防ぐ環境づくり

孤食の環境に置かれている子どもたちが他の人と一緒に温かい食事を、楽しく食べることができる場の提供に努めます。

オ 安心・安全な環境づくり

子ども達が交通事故や犯罪に遭わないよう、安全教育の実施、啓発活動を行うとともに、児童・生徒の安全確保のためには、地域をあげて登下校時の見守り活動を活性化するため、支援に関わる人材の育成に取り組みます。

④ 実施主体

コミュニティ推進協議会、自治会連合会、子ども会育成連絡協議会、上宇部チキチキクラブ、上宇部母子保健推進員会、ふれあい運動推進委員会、交通安全協会上宇部分会、上宇部みまもり隊

(2) 高齢者福祉の向上

① 課題

上宇部校区の平成28年4月1日現在の65歳以上の人口は、男性1,694人・女性2,346人の計4,040人です。高齢化率は28.6%で宇部市平均の30.8%に比べて低い状況ですが、いわゆる「団塊の世代」の方々が75歳以上になる平成37年(2025年)頃には、高齢者のみで構成される世帯や認知症の高齢者がますます増加していくことが予想されます。

そうした中で高齢者が住み慣れた校区で安心して暮らし続けるためには、身近な校区の人々との交流や関係団体等の声かけや訪問などによる日常の安否確認や、こうした安否確認等を通じて、できるだけ早期に問題を発見し、必要な支援等を迅速かつ効果的に行っていくことが求められています。

② 目指す将来像

「支え合い、誰もが安心して健やかに暮らすことができる社会づくり」

誰もが住み慣れた地域で安心して生活することができる社会の実現を望んでいます。校区は、地域民一人ひとりがお互いを尊重しながら共に生きるという意識を持ち続け、行動を積み重ねて行く地域社会を目指します。

③ 今後の取り組み

ア 高齢者福祉を担う人づくり

住民同士の支え合い活動を周知し、民生児童委員、福祉委員をはじめ、地域福祉を担うリーダー及び新たな人材の開拓に努めます。

イ 高齢者福祉を支えるネットワークづくり

自治会をはじめ、社会福祉協議会、民生児童委員協議会、福祉委員会等様々な団体同士の連携を構築することで、コミュニティを充実させ、見守り体制の強化を図ります。

ウ 近隣同士の助け合いのしくみづくり

お助けカード(災害時要援護者安否確認登録申請書)を作成し、日頃から声を掛け合う関係性及び非常時に助け合う関係性を構築します。

エ 高齢者の居場所づくり(サロン)の推進

高齢者の安心・安全な活動拠点(居場所)を設け、地域交流を促すとともに、様々な活動を推進します。

④ 実施主体

自治会連合会、コミュニティ推進協議会、社会福祉協議会、民生児童委員会、福祉委員会、婦人部連合会



(3) 健康づくりの推進

① 課題

上宇部校区は、高血圧や脂質異常症などの循環器疾患や筋骨格系疾患での受診者が多いことから、これらの疾病の予防・重症化予防のための取り組みが必要です。

また、高齢化が進み、介護保険認定者が増加する中、できるだけ自立した生活を送れるための介護予防や認知症予防のための取り組みも必要です。

さらに、「がん」にかかる医療費が最も高いにも関わらず、がん検診の受診率は低い状況なので、検診受診率を上げるための啓発活動も重要です。

これらを推し進めるためには、個々の健康づくりに加え、市と協働し地域全体で取り組む健康づくりの推進が望まれます。

② 目指す将来像

「いつまでも自立した生活を送るために、地域全体で健康づくりを取り組み、健康寿命を伸ばす」

健康を支え、守るための社会環境を整備するためには、校区民が主体的に社会参加しながら、支え合い、地域や人とのつながりを深めます。また、地域の自主組織が自発的な健康づくりに取り組んでいきます。

③ 今後の取り組み

ア 健康づくりに関する情報発信・普及啓発

校区内のイベントや研修会など、さまざまな場で、誰もが分かりやすい視覚型・体験型の啓発を取り入れていきます。

イ 健康づくり推進のための講習会やイベントの実施

健康について関心を高め、主体的な健康づくりへ行動変容できるような講習会やイベント等を実施します。

また、運動・食生活・歯や口腔・検診受診等、健康的な生活習慣を身につけるための講座等の場を充実させます。

ウ 健康づくりのための組織の充実及び連携

個人の健康づくりを支援するために、身近な仲間や組織が連携して活動し、地域全体で健康づくりを推進していきます。

エ 市との協働

市と協働し、地域課題を見据えた取り組みを実施します。

④ 実施主体

コミュニティ推進協議会、健康かみうべ21、体育振興会、自治会連合会



(4) 地域防災の向上

① 課題

上宇部校区は、最近、大きな災害の被害はなく防災に対する意識は薄れつつあります。しかし、いつ大きな災害が発生するか分かりません。災害が発生したとき、被害を最小限に抑えるためには、日頃からの備えが必要です。そのため、防災意識と防災力を住民一人ひとりが高めていくことが重要です。

また、住民相互の助け合いによる防災活動が、住民意識の変化等により低下していくことが懸念されます。そのため、災害発生時の初期的対応や平常時の防災に対する住民意識の向上を図るため、自主防災組織等の活動を中心とした防災機能の強化・育成を図ります。

② 目指す将来像

「地域防災力の向上」

上宇部校区は、「自らの生命は自らが守る」、「自分たちのまちは自分たちで守る」ことを防災の基本理念として、災害に対する不断の備えを進めるとともに、各種団体との相互連携を強めながら地域の防災力の向上を推進していきます。

③ 今後の取り組み

ア 防災対策の整備・推進

校区における物資等の備蓄、高齢者等の避難支援体制の構築等の自発的な防災活動に関する計画である地区防災計画を作成します。

イ 自主防災組織の強化・育成

自主防災組織は日常の活動を通じて地域の連帯感の強化が期待される等、重要性が増しています。今後、より積極的に自主防災組織の強化・育成を図る必要があります。

ウ 防災意識の普及・啓発

防災士を含めた防災関係者を中心に防災に関する研修会を実施します。また、自治会行事等で、防災グッズを展示することで、防災意識の高揚と防災機器の普及を図ります。

エ 災害に備える活動の実施

「自らの生命は自らが守る」、「自分たちの地域は自分たちで守る」ことを目的として、年に1回、自主防災訓練を実施します。

また、自治会を単位とした自主防災組織を設置し、非常時には情報把握・避難誘導等自主的な防災活動を行います。

④ 実施主体

自主防災会、コミュニティ推進協議会、自治会連合会



(5) 地域資源の活用

① 課題

上宇部校区は地域団体や地域行事がとても活発に行われています。しかし近年、それらに関わる人材の固定化と不足が懸念されています。これまで地域活動に関わったことのない人や若い年齢層が活躍し、より地域活動の活発化につながるよう人材の発掘・活用が必要となります。特に、ボランティア精神の醸成を図る研修会を開催することが大切です。

また、琴崎八幡宮、福原邸、教念寺等の歴史的な文化財や史跡のほか、宇部工業高等専門学校、山口大学工学部等の教育機関がある等、多種多様な地域資源を有しており、ふるさとに誇りや愛着を持ち地域資源を活用して地域の活性化につなげます。

② 目指す将来像

「地域資源に誇りと愛着を育む意識づくり」

人の行動範囲や交流範囲が広がったこと等により、地域のつながりを大切にする意識や地域に目を向ける機会が少なくなっています。地域資源について、誰もが自分の住む地域に目を向け、地域への誇りと愛着を持ってもらうための機会を多く持つことが重要です。

③ 今後の取り組み

ア 地域人材の発掘

上宇部校区は、多くの人材が埋もれています。そこで、これまで地域行事に参加していない人でも参加しやすいイベントをきっかけに、新たな人材を発掘します。また、若者に祭りなどの地域行事に参加してもらい、地域の盛り上げに関わる人を増やします。

イ 地域交流の推進

上宇部に住んでみたい、住んでよかったという想いの中から生まれるアイデアや発想を誰もが共有する事業を推進します。例えば、自治体で学べるランチ事業を実施して三世代の交流を図ります。

ウ 地域ふるさと資源（名所・旧跡）の再認識

琴崎八幡宮、福原邸跡、教念寺等の名所・旧跡を巡り、心の拠り所であるふるさとを知る機会を増やす取り組みをします。

④ 実施主体

かみうべまちの駅、まちづくりサークル、コミュニティ推進協議会

(6) 人権の啓発

① 課題

上宇部校区では、昭和 49 年に宇部市隣保館上宇部会館が開設されて以来その時々の社会背景や時代の要請に応じて同和問題をはじめさまざまな人権課題解決のために学習会や講座の開催等の事業を推進してきました。

しかし、著しいインターネットの普及や格差社会の進展等により、人権を守ることが厳しくなった近年において、校区で開催する啓発事業の参加者は固定化し、若年者の割合は非常に低く、広がりが見られない状況です。

今後、生活困窮者自立支援法、障害者差別解消法、ヘイトスピーチ対策法、部落差別解消推進法の施行と次々と法整備が進む中で、今の時代に合った充実した学習機会を一人でも多くの校区民に提供し、人権意識を高めることが課題と考えます。

② 目指す将来像

「すべての校区民の基本的な人権が尊重されるまちづくり」

人権意識の普及・高揚に努め、真に人の痛みが分かり、思いやりとやさしさに満ちた感性豊かな人間性を育むためには、校区民が人権に関する認識を深め、日頃から人権について関心を持つことが大切です。

③ 今後の取り組み

ア 人権啓発の推進

校区コミュニティ事業（校区文化祭・夏祭り他）等、幅広い世代が交流する場での啓発事業（人権コーナーの設置等）を推進します。

イ 巡回啓発事業の推進

各自治会等に出向き、地域と連携して啓発事業（人権学習会の開催）を行います。

ウ 人権意識の高揚

上宇部校区の全世帯に人権啓発紙を発行・送付し、人権意識の高揚を図ります。

エ 宇部市隣保館上宇部会館との連携

宇部市隣保館上宇部会館と連携して、様々な人権啓発事業を推進します。

④ 実施主体

人権教育推進協議会、ヒューマントーク太陽、自治会連合会